

## 第1回協議会だより 《北方部》



—令和4年5月27日（金）15:00～16:40 総合福祉センター 3階研修室—

### 【実践発表】 郡山市立行健小学校

「スタートカリキュラムの実践」～子どもたちが安心できる環境づくりをめざして～



行健小学校では、改訂された学習指導要領の、「生きる力」を子どもたちに育むための三つの柱（「知識・技能の基礎」「思考・判断・表現の基礎」「学びに向かう姿勢・人間性」）に基づいてスタートカリキュラムを作成しており、4月から6月まで長期的な視野に立って計画を作成し、週案の中で具体化している。

実践事例の「安全な登下校」については、幼稚園、保育所の送迎とは違い、不安を抱きながら長距離を歩くことが、登校しぶりや不登校の要因になるのではと着目し、約3kgもあるランドセルを背負って登校する児童の負担を軽減する対策を図った。これは、校長先生自らが、児童の立場に立って課題解決に取り組んだ事例である。

### 【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



#### ☆ 行健小学校の発表について

- ・幼稚園、保育園、こども園の育ちや学びが、途切れることなく小学校でも連続しており、円滑な接続がされている。
- ・円滑な接続の第一歩として、自らの行動をサポートする環境（視覚的なサポートができる掲示物、遊びの要素を取り入れた学習課題、異学年交流）が整っていると感じた。

#### ☆ アプローチカリキュラムからスタートカリキュラムへの連携について

- ・実際に、近隣の幼稚園と小学校が連携してカリキュラムを作成し、互いに交流を深めているため、円滑な接続が出来ている。
- ・保育所児童保育要録の送付の際にも、話し合いの場を設ける等、情報共有が必要である。
- ・就学後の児童の様子を知りたいので、小学校参観の機会を設けてほしい。

#### ☆ コロナ禍における保育（教育）の取り組み

- ・コロナ禍の行事について、保護者へアンケートを出したことで、保護者の意向が理解できた。表情がよくわからない場合もあるが、給食時等に子どもの表情をよく見て確認している。

#### 《参加者からのアンケートから》

- ・中学校教員としても、幼・保・小連携に参加することで、生徒に細やかな指導ができると思いました。（中学校：女）
- ・行健小学校長の事例を聴講し、自らが課題を見出して早期に対応していることに感動しました。そして、職員一人ひとりの意識付けの大切さを改めて感じました。（保育所：女）

「相互参観だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。